

キューピットハウスだより No.17

キューピットハウス感染状況

キューピットハウスでは、現在、流行期は過ぎたもののインフルエンザ A 型の利用が続いています。インフルエンザ B 型の利用はありません。
他には、溶連菌感染症、胃腸炎、上気道炎、気管支炎の利用があります。

今回は、2月から利用が増えているヒトメタニューモウイルス感染症についてお伝えします。

ヒトメタニューモウイルス感染症とは？

Q. どんな症状ですか？

A. 発熱、咳、鼻水、喉の痛みなど

乳幼児は、喘鳴(ゼーゼーする呼吸)や呼吸困難を引き起こすこともある

Q. 治療法はなんですか？

A. 特効薬やワクチンはありません。

治療は、年齢と症状に応じた対症療法となります。

Q. いつから登園できますか？

A. ヒトメタニューモウイルス感染症は、インフルエンザやおたふくかぜのような明確な登園・登校基準がありません。

日本小児科学会は、学校・保育施設における感染予防のガイドラインでは「咳などの症状が安定した後、全身状態のよい者は登校(園)可能であるが、手洗いを励行する。」

という内容を、登園基準として記載しています。

ポイントとしては、

- ① 発熱や咳などの症状が落ち着き、全身状態がよい
- ② 食欲があり、普段通りに生活ができる
- ③ 元気がない、ぐったりしている、咳がひどい場合は自宅で安静に過ごすです。

不安であれば、かかりつけ病院や保育園(学校)に確認しましょう。

キューピットハウスでの子どもたちの様子

キューピットハウスでは、普段3歳までのお子さんの利用が80%以上を占めますが、インフルエンザの流行時期は、年齢が高いお子さんがたくさん利用します。

当施設は、病名ごとに部屋分けをしています。

そのため、インフルエンザのお子さんの利用があると、様々な年齢のお子さんが一緒に過ごすことが多く見られます。

毎回、どんな雰囲気になるのかなど？と心配するのですが、いつも杞憂に終わります。最初こそ少し緊張した表情を見せるものの、気がつけば元々友達だったのかなと思うくらい仲良く過ごしています。

小さいお子さんが泣くと、「どうしたか？」と皆が原因を探り、「このおもちゃで遊びや！」と声をかけてくれたり「先生、お腹空いとんちゃう？」と保育士にアドバイスをくれたり、お兄ちゃんやお姉ちゃんたちは大活躍です。

小さいお子さんたちもお兄ちゃんやお姉ちゃんがいて、嬉しくて嬉しくて仕方がなく、ニコニコしながら過ごしています。

お兄ちゃんが上手に食べている姿をみて、食欲がなかったお子さんが見事完食したり、お姉ちゃんが折り紙をしていると、横にちょこんと座って見よう見まねで一緒に折り紙を頑張って折ったり…

そんな微笑ましいエピソードがキューピットハウスでは毎日見られます。

また、それらのことをお迎えのときに保護者の方にお伝えすると、「えーそんな姿みたことない！」と違った一面に驚かれることも多々。

キューピットハウスでは、お子さんが自宅で過ごしているかのようなリラックスできる環境で過ごすことができる。そんな場所になれたらと思います。今後も利用するお子さんが安心して過ごせるよう努めて参ります。



わからないことやお困りのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

【問い合わせ先】

細木病院 キューピットハウス

電話番号 088-822-7211(病院代表)

開設時間 月～土 8:00～18:00(日・祝はお休みです)